

八尾翠翔高校版「ラーケーションの日」の内容について

- 「実体験×知識」の掛け合わせによって、学習内容の理解度・記憶定着率が大幅に高まる
歴史の授業で習った戦国時代 → 実際に訪れて体感する、食と農の単元
→ 実際に野菜を収穫して食べる
気象や自然 → 現地の自然観察やキャンプで実感する
- 家庭学習の視点から見ても、ラーケーションは「保護者が教育に関わる入り口」としても有効。家庭が“学びの場”になることが求められる、ラーケーションはまさに“親子が協働する教育スタイル”。
子どもの興味に合わせて旅先を選ぶ・一緒に体験し、学びを振り返る・学校での探究や発表にも活かす
- 活動内容は学校を離れての体験的な学習

<体験活動の例>

- ① 平日ならではの水族館や博物館
興味のある施設に行き、時間をかけてじっくりと見学や体験する。平日は、様々な施設が休日に比べて混雑していない。
- ② 気分は研究者でレポートを書いてみる
興味のあることや疑問をもったことについて調べ、レポートを書いてみる。書いたレポートをコンテストに応募してもよい。
- ③ 学校体験 普段の様子を見に行く
普段の大学や専門学校の様子を見てみる。大学図書館や、周辺の街の雰囲気味わうのもよい。
- ④ 職場体験 やりたい仕事をやってみる
インターンシップだけでなく、普段の日に将来やりたい仕事を体験してみる。会社の方から仕事のやりがいなどを聞けるかもしれない。
- ⑤ 自然の中で 創作活動をする
普段はあまり行かない場所で絵を描いたり俳句を詠んだりする。いつもと違う環境だと新たな発想が生まれるかも。自分が野菜をおいしく育てるためのコツを、農家の方に聞きに行くというのもいい。
- ⑥ 再発見 地域の歴史を調べる
実際に史跡を訪れたり地域の図書館で資料を読んだりして知識を広げ、深める。自分が住む地域の歴史については意外と知らないもの。
- ⑦ 興味のあることを探究する
大きな図書館や博物館に出かけて、自分が興味のあることを徹底的に深掘りすることもいいかもしれない。どっぷりつかってみて初めてわかることもある。
- ⑧ その他・・・関心を高める
七宝焼や陶芸の体験をする、ロボットを動かすプログラミング体験に挑戦する、「人と防災未来センター」を訪問し、地震の恐ろしさや対策について話し合う。旅行、企業見学、ボランティア、地域活動、資格取得学習や研究等

注意事項

- ・3年間で3回実施します。
- ・授業の一環で行います。（ラーケーションカードの提出が必要）
- ・計画を立て、保護者の了解を得ること（保護者が同行しなくてもよい）
- ・学校に個人の計画を申請する必要があります。（ラーケーションカードの提出）
- ・「ラーケーションの日」実施時期は次年度以降、年間行事予定を参考にしてください。
- ・「ラーケーションの日」実施中は、原則学校に登校しませんが、学校でないとできないことや、個別の理由がある場合は事前に申し出てください。

FAQ

Q1 学校に登校する必要はありますか？

A1 校外学習として位置づけますので、学校に登校する必要はありません。
学校で活動を行いたい場合には、担任まで相談してください。

Q2 別日に実施することはできますか？

A2 本校では、授業の一環で行います（校外学習と同じ扱い）。別日に実施することはできません。また、学校で行う「ラーケーションの日」以外の日に、個別で同様の取組みを行っても対象となりません。

Q3 実施の直前の内容変更は計画提出後もできますか？

A3 ラーケーションは、計画的に行うことが目的の一つですので原則できませんが、やむなく急な計画変更などの際にはご相談ください。

Q4 「ラーケーション」でケガなどをした場合、どうなりますか？

A4 授業の一環として行うので、原則的には学校の管理下として扱われますから、学校で任意加入している日本スポーツ振興センターの災害共催給付制度の対象となります。
（提出されている計画と違う内容や場所におけるケガなどについては認められない場合があります。）

Q5 テマパークに滞在するような計画でも可能ですか？

A5 可能です。テマパークで働く人を観察するなど、学ぶテーマを決めると効果的だと思います。

Q6 山に滞在するような計画も可能ですか？

A6 保護者とよく相談してください。安全に配慮して、十分な計画を立てて実行するようにしてください。

Q7 「ラーケーションの日」がちょうど入試など進路に係る日だったらどうなりますか？

A7 進路に係る日なので、出席停止扱いとなります。「ラーケーションの日」としては活動できませんが、欠席にはなりません。

Q8 報酬が発生するような、アルバイト的な体験授業はできますか？

A8 基本的に報酬が発生するものについては、主旨に反することになりますのでできません。ただし、判断しにくいことなどは先生に相談してください。